

栃木県の幼児教育と小学校教育をつなぐジョイントカリキュラム

つなげよう！

とちぎのこどもの まなび



令和4（2022）年度幼小接続推進者研修まとめ

この資料は

- ❖ テーマを視点に、子どもの姿から教育内容・方法を想定した、幼小接続期の指導計画です。
- ❖ 入学を境にした時期に、子どもの学びや育ちがどのようにつながっていくのかを、共通のテーマから捉え、まとめました。
- ❖ 幼児期後期から小学校入学当初にかけて大切にしたいことを、「大切にしたい子どもの姿」「育ちにつながる活動の例」「保育者・教師の指導のポイント」の3つの視点で示しました。
- ❖ 各園・各校でアプローチカリキュラムやスタートカリキュラムを見直す際の参考にしてください。
- ❖ 市町教育委員会や自治体等における幼小接続事業や、架け橋期の教育の充実の取組の際に御活用ください。



大切にしたい子どもの姿

無自覚な学び

- 年少中児によりよい自分を見せようという意欲が見られる。
- 頑張っている友達を称賛できる。
- 友達の話聞いて、話合いをする。
- 自由に表現することを楽しんでいる。
- 保育者に受け入れられている安心感をもっている。

- 思い通りにいかないことがあっても、最後までやり抜くことができる。
- 折り合いを付けながら、園児同士で話合いをする。
- 自分の目標を立てる。

- 友達の話を楽しみながら聞いている。
- 自分の良いところに気付くことができる。
- 上学年との交流の中で、大切にされる自分に気付く。

- 友達同士で、情報のやりとりをすることができる。
- 対話を通して、学びを深めている。
- 多人数の前で自己表現ができるようになってくる。
- 一人一人が、自信をもって自分の考えを出すことができるようになる。

自覚的な学び

目指す姿：安心感をもち、目標に向かって学びたいも

幼児期・年長後半

育ちにつながる活動の例



気になったことについて
のアンケート



話し合いながら
活動を進めている



自分たちで考えた
お店を開く



お互いの意見を聞き
合いながら話し合う



1年生を迎える会で
上級生との活動



学校探検で気になる
物について話し合う



興味のある本を見つけ
集中して読む



ペアでの意見の交流

保育者・教師の指導のポイント

- 園児一人一人の発達に応じた指導を大切にする。
- 気付きを積極的に認めることで、安心感を得られるようにする。
- 自己主張を丁寧に受け止める。
- 物事を選択できる場を多く用意する。
- 遊びの中で事象の不思議さを感じさせるようにする。
- 体験活動の中で、できたという喜びを十分に味わわせる。

- 小学校生活に希望をもてるような言葉掛けをしていく。
- 小学校のイメージについて、話し合う時間を設ける。
- 目的意識をもって取り組めるような言葉掛けを多くする。
- 考えた過程を大切にする。
- 最後までできたことの達成感を味わわせるために、活動の振り返りを十分に行う。
- 園児が自分の思いを主張することを大切にする。
- 話合いの時には、保育者も仲間の一員となる。

- 一日の流れや、授業の流れを示すことで学校生活に安心感をもつことができるようにする。
- 児童の思いや願いにしっかり耳を傾ける。
- 安心感をもって、自分の言葉で話することができる場を作る。
- 友達から共感してもらえる場を作る。
- できたことや頑張ったことを積極的に認めることで、自信を付けられるようにする。
- 話合いでは、一人一人の思いをつないだり、見守ったりする。

- 一人一人の興味・関心に応じることができるよう、関連する絵本や図鑑等を配置し、主体的に学ぼうとする意欲を高めることができるようにする。
- 学びへの振り返りの時間を大切にする。(気付き・学びを称賛する。)
- 時間が区切られる活動でも、焦らなくていいという声掛けをするなどの支援をし、見守るようにする。
- 仲間意識をもてるような体験活動を増やす。



大切にしたい子どもの姿

無自覚な学び

- 友達との関わりやトラブルの中で、自分の思いを伝えるだけでなく、相手の思いにも気付こうとしている。
- 経験したり、感じたり、考えたりしたことを色々な方法で表現することを楽しむ。
- 動植物や自然事象にふれ、興味や関心をもち、触れたり、収穫したり、遊びに取り入れて楽しむ。

- 困っている友達がいたら保育士に伝える。
- 共通の目的に向かって自分の考えや思っている事を相手に伝える。
- 気の合う友達と好きな遊びを楽しみながら仲間の輪を広げていき、仲間意識が高まる。
- 簡単な決まりを守り、みんなで遊ぶ楽しさを味わう。また、みんなでルールを決めて遊びを進めていく。

- 時間割に沿って、時間を意識した生活をする。
- 学級で係活動の役割を担当し、責任をもつ。
- クラス遊びや縦割り班の交流を通し、集団で遊ぶ楽しさを知る。
- 授業の中で、自分の考えを友達に伝えたり、友達の考えに耳を傾けたりする。
- 興味をもったことに夢中で取り組み、存分に表現する楽しさを体感する。

- 行事では、自分の目標を決めて練習する。
- 係活動の工夫や、皆のためにできることを考え、自発的に行動する。
- 友達の個性を認め、大切にしようという気持ちを高める。
- 友達と思考錯誤しながら活動し、他者のアイディアも取り入れる楽しさを知る。
- 追究して分かったことや、その気持ちを友達に伝える経験を通し、説明する力を身に付ける。

自覚的な学び

目指す姿… 他者と協働しながら、自分の力を駆使して一生懸命に取り組む子ども

幼児期・年長後半

育ちにつながる活動の例



小さい子にいたわりの気持ちをもつ



みんなの前で自分の思いを伝える経験をする



自分たちでアイディアを出し合い必要なものを作る



勝った喜び、負けた悔しさを共有し、競う楽しさを味わう



自己紹介 クラスの友達のことを知ろう



縦割り班活動で異年齢児童と遊ぶ



友達のアイディアを生かして作品作り



一体感のあるダンスを発表（運動会）

児童期・一年生前半

保育者・教師の指導のポイント

- 思いがぶつかり合った時には、子ども同士の話し合いで伝わりにくい思いを保育士が補い、ヒントをだして子どもたちで解決できるように見守る。
- 年下の友達に対する優しい関わりや言葉掛けを認め、年長児としての自信につなげていく。
- 収穫物を並べ、大きさを比較したり、数を一緒に数えたりしながら数、量、形などへの興味がより深まるようにする。
- 目標をもって取り組んでいる姿や出来た時の嬉しさをタイミングよくとらえ、自信につながるよう、認めたり、みんなに知らせたりしていく。

- 異年齢児と一緒に過ごす機会の中で自分の役割に気付いて進んで活動している姿を認め自信につながるよう関わっていく。
- 就学への期待をもち、小学校への関心を深められるように、小学生との交流会の内容について丁寧に打ち合わせをする。
- 子どもたちの豊かな発想を大切に、子どもたちのアイディアを大切にしながら、必要に応じて援助を行う。
- 「どうしたらいいと思う？」等と問いかけ、子どもの考えを引き出していく。
- いろいろなあそびの中で勝った喜び、負けた悔しさを共有し、競う楽しさを味わうことができるようにする。また、友達の気持ちにも気付き、その場にあった言葉を掛けている時にはその優しさを十分に認めていく。

- 時間やきまりを守れるよさを、児童自身が体感できるようにし、自ら守ろうという気持ちを育てる。
- 係活動では、平等に協力しながら学校生活が進むよう、支援する。
- 休み時間は一緒に遊びながら、楽しい時間を作ると共に、トラブルの未然防止に努める。
- 友達の考えを聞く際には、静かに、寛容な雰囲気を受け止められるように指導する。
- 生活科や図画工作では、それぞれのペースで安心して表現できる時間を確保し、表現する楽しさを体感できるようにする。
- 活動を選択できるようにしたり、興味に合った活動を設定したりすることで、児童の「やってみたい」という活動意欲を高める。

- 学校行事のめあてや振り返りで、児童の思いを受け止めたり、コメントで頑張りを認めたりして、児童の達成感につなげる。
- 学級のために自分にできることは何か児童が考え、実践する機会を作る。
- 遊びや授業中の関わりを通して、児童同士が互いの長所や短所をよく知ることができるようになる。
- 活動の目的やめあてを分かりやすく伝え、児童が「できるようになった」という充実感がもてるよう、授業展開を工夫する。
- 多様な表現を認めたり、体験的活動を充実させたりして、児童の表現欲を高める。
- 児童自身が興味をもったことを、調べたり追究したりする経験をつめるように、指導を工夫する。
- 活動の過程を認め、励まししながら、失敗を恐れず挑戦する気持ちを育てる。



大切にしたい子どもの姿

無自覚な学び

- 自分の好きな遊びを見付け、じっくり取り組む。
- 友達と遊ぶ楽しさを感じている。
- 次の活動への意欲をもち、身の周りのことを自分からやろうとする。
- 当番や水やりなどの活動に達成感をもって取り組む。
- 生活を通して、身近なあらゆる環境からの刺激を受け止め、自分から興味をもって環境に主体的に関わりながら満足感を味わう。

- 友達と積極的に関わりながら、喜びや悲しみを共感し合い、行事など一つのものに向かって協力しようとする。
- 色々な遊びを楽しみ、物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。
- 友達と楽しく、活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり協力したりする。
- 就学する意識が高まり、生活の中で見通しをもって過ごしたり、友達の気持ちに気付いて話し合ったり、折り合いをつけようとする。

- 係活動や当番などの新しいことに挑戦する楽しさや喜びを感じている。
- 生活科であさがおを育てる活動に意欲的に取り組んでいる。
- 時間を見て行動したり、進んであいさつしたりするなど基本的な生活習慣を身に付けている。
- 新しい友達と一緒に、共通の課題に夢中で取り組んでいる。
- 友達の個性やよさに気付く。

- 目標を立てることで前向きに頑張ろうという気持ちが育っている。
- みんなで一つのものを作り上げる喜びや達成感を感じ、運動会の表現(ダンス)練習に一生懸命取り組んでいる。
- 学習したことを生かし、さらに知りたいことを図書室の本を活用して調べ学習に取り組んでいる。
- 友達と協力して、課題を解決しようとしている。

自覚的な学び

目指す姿… 何事にも自信をもってねばり強くがんばる子ども

幼児期・年長後半

育ちの例



異年齢児との交流活動



作物の生長を体験



おみこし作り



太鼓の発表



給食当番



あさがおへの水やり

みんなで一つのもの
(表現練習)

友達と学び合う

保育者・教師の指導のポイント

- 子どもたちが、自分なりに環境に関わる姿を大切に、場や物の配置を工夫したり保育者も一緒に遊んだりして子どもたちがお互いの考えや思いに触れることができるような環境を整える。
- 友達と当番活動に取り組む中で工夫したり協力したりすることで達成感を感じられるような内容にする。
- 保育者は多様な関わりをもち、活動の場面に応じて一人一人の個人差に配慮して指導を行う。

- 園児一人一人が何に関心を抱き、何に行き詰まっているかなどを捉え、その姿から園児の生活や発達を見通して計画を立てる。
- 自分一人だけではできない事も友達と協力して行うことで、どのような結果を生むのかを肌で感じながら協力する大切さが理解できるよう働きかける。
- 就学する不安や期待を受け止めながら、安心して学校へ行けるような関わりをもち、意欲的に園での活動を進められるようにする。

- 子どもの興味関心を肯定し、さらに広げられるような声掛けや活動の場を設定する。
- 安心感をもって取り組めるよう、指示は具体的に端的に行うとともに、時間割や活動の手順を可視化し、見通しがもてるよう工夫する。
- ペアやグループで活動する場を積極的に取り入れ、友達のよさに気付いたり、個性を認め合えたりできるようにする。
- 掲示物など教室環境を整える。

- 各教科の学習において、子どもの探求心をくすぐるような導入の工夫に努める。
- 自分の思いを尊重し、課題を選択できるような自己決定の場を設ける。また、自分の成長を実感できるよう、スモールステップを意識した課題設定を意識する。
- 努力の過程や児童の頑張りを認める声掛けをする。
- 友達と自然に学び合えるように学習形態を工夫する。



大切にしたい子どもの姿

無自覚な学び

- 遊びや生活の中で自分からやってみようとする意気込みが見られ進んで物事に取り組むようになっている。
- 試したり工夫したりして、新しい考え方を生み出す喜びや楽しさを味わいながら行動している。
- 目標に向かって、失敗してもやり遂げようとしている。

- クラスやグループの中で、自分の力を発揮し、目的をもって遊びや生活を進める。
- 友達のよさを受け入れ互いに認めながら一つのことに取り組んでいる。
- 生活や活動に見通しをもって、主体的に行動している。

- 学校生活への興味や関心を高めている。
- 生活の見通しをもち、よりよく学校生活を送ろうと工夫している。
- 生活科では、感動したり、疑問を持った中で、自分なりの目的をもって活動している。
- 各教科の学習において、自分の思いを表現しながら、友達と協力して活動をやり遂げようとしている。

- 生活や学習についての自分の課題に気付いている。
- 疑問や知的的好奇心から学習のめあてを立てようとしている。
- 生活科では、自分の思いを実現するために、色々な方法を試し、あきらめずに活動に取り組んでいる。
- 各教科の学習において、学んだことを振り返り、次の学習への意欲を高めている。

自覚的な学び

目指す姿：見通しをもって、粘り強く取り組む子ども

幼児期・年長後半

育ちにつながる活動の例



友達同士で順番を決め、リレーで勝負。



仲間を集めてドッジボール遊びに取り組む。



グループ毎に発表会の話し合い。



発表会で使用する大道芸をクラス全員で作成。



学校探検では、関心をもった教室を見に行く。



台詞を想像し、グループで音読劇に取り組む。

児童期・一年生前半



理想のシャボン玉を作るための道具を作る。



計算カードの検定に取り組む。

保育者・教師の指導のポイント

- 子どもの興味や関心を適切に把握し、子ども自ら「やってみたい」と思うような環境の構成をする。
- 子どもがしたいことにじっくりと取り組む事が出来るような、時間や場を十分に確保する。
- 試行錯誤する過程を見守ったり、子どもたち自身でゴールを見付けられるようなヒントを与えたりする。
- 翌日も続きをして遊びたいという気持ちがあるような、遊びの振り返りの時間を大切にする。

- 友達やクラス全体で創作や表現を楽しめるような活動を取り上げ、協働する楽しさや充実感を味わえるような機会を設ける。
- 友達と相談して遊びや活動を進めていく中で協力してやり遂げた姿を認め、友達のよさや大切さを感じることができるようになる。
- 目的に向かって取り組んだ時間や充実感が味わえるようにする。
- 小学校生活への移行を意識して、場や時間に即した行動ができるように、一日の生活の流れを作っていく。

- 安心して過ごすことのできる環境を作るとともに、自校への興味関心を高めるような発言を意識する。
- 自分なりの目的に向かって活動できるよう、単元の終末までの見通しを明確に示す。
- 生活科では、自然や学校生活などの素材を自分事として捉えることができるよう、児童の感動や疑問をもとに活動を展開する。
- ペアやグループの活動を位置付け、意見を出し合いながらよりよいものを作る時間を確保する。

- 個々の学習や生活の課題を児童自身が認知できるようはたらきかける。
- 授業の始まりには、学習課題を自分事として捉えられるような導入を工夫する。さらに、その時間（単元）のめあてを子どもと共有しながら立て、学習の見通しをもてるようにする。
- 生活科等では、子どもの気付きを尊重し、支援を最小限にして活動を見守る。
- 学習や活動の終末には、振り返りの時間を設定し、自分の思いや考えを表現させることで、新たな見通しをもつことができるようにする。



大切にしたい子どもの姿

無自覚な学び

- 工夫や挑戦、失敗や試行錯誤を繰り返しながら、夢中になって遊びに没頭している。
- 自然や身近な環境に自ら関わり、発見を楽しみ、遊びを創り出している。
- 自分の思いを分かるように伝えたり、相手の話を聞いたりして相談しながら遊びを進めている。
- 当番活動やクラスの役割を理解して自ら行動しようとし、人の役に立つ喜びを味わっている。

- 自分のよさや可能性に気づき、意欲や自信をもち生活している。
- 友達と協同する中で、自分を発揮しながらも相手とも折り合いを付ける体験を重ねている。
- 友達とより遊びが楽しくなるルールを考えながら自分たちで遊びを進めることを楽しんでいる。
- 就学へのあこがれや期待感をもち、クラスの友達と共通の目的に向かって意欲的に生活している。

- 新しい友達との出会いや新しく始まる学習への意欲をもっている。
- 友達と一緒に活動する中で、お互いを理解し、仲良く助け合おうとしている。
- 動植物の世話などを通して、命の大切さに気づき、世話している。
- 自分と違った意見も受け入れて活動している。
- 学習や学校生活での課題解決に自ら取り組もうとしている。

- めあてをもって最後まで挑戦し、達成感をもっている。
- 言葉や絵、動き、文章など様々な方法で、自分の表したいことを表現している。
- 場に応じた聞き方や話し方がわかり、人の話を最後まで聞いたり、自分の考えを相手に分かるように話したりしている。
- 自分と違った意見のときも、折り合いを付けて解決している。

自覚的な学び

目指す姿：自他共に認め合いながら、めあてに向かって意欲的に取り組み、自己発揮できる子ども

幼児期・年長後半

育ちにつながる活動の例



自分への挑戦：根気よく取り組み達成感を味わう



作品展：同じ目標に向かって共同制作に取り組む



私のメッセージ：思いや考えを自分の言葉で伝える



良い所さがし：自他の良い所を話し合う



学校探検：どんな教室があるのか興味をもつ



生活科：友達と話し合ったり調べたりして解決する



粘り強さ：できるようにならなくて練習する



話し合い：意見を出し合い、解決・決定する

児童期・一年生前半

保育者・教師の指導のポイント

- 遊びが発展できるよう見守ったり、時には子どもと共に遊びを創ったりなど、とことん遊び込める環境を整え支えていく。
- 豊かな言葉で考えや思いを相手に伝えられるよう、十分な話し合う時間を確保し経験を重ねる機会を作る。
- クラス活動や行事において目的意識をもち、十分に個々の力が発揮できるように配慮する。
- 生活や遊びの中で困難や問題が生じたときは、自分たちの力で解決できるよう支える。

- 一人一人の個性を認め合い、自分を大事にし、友達を尊重する気持ちを育んでいく。
- 望ましい人間関係が育つよう、お互いに認め合いや助け合いができる機会をその都度大切にし、援助する。
- 子どもたちの主体性を大切にしながら、共通の目的をもって友達と協力し、活動を進めていく充実感が味わえるようにする。
- 就学に向けての期待や不安を受け止め、一緒に成長を振り返り就学への希望がもてるよう支える。

- 学習時間の区切りを意識しつつ、時間を細かく区切るなどの柔軟に対応する期間を設ける。
- 安心して生活が送れるよう、活動が見通せる掲示物を用意する。
- ペア活動を積極的に取り入れ、新しい友達との関わりを促す。
- 遊びの要素を授業に取り入れ、一人でも大勢でも楽しめるような活動を行う。
- 教師や上級生との関わりなどを通して、「学校は楽しい」と感じ、安心して過ごせるように学校全体の協力体制を整える。

- 「自分でできる」「自分でやりたい」気持ちや、くじけずに取り組んでいこうとする気持ちを大切にしながら、子どもたちが興味を示せるような課題を取り入れる。
- できるようになった喜びや達成感を味わえるような指導の手立てを工夫する。
- 生活科では、児童の興味や関心、意欲を大切にし、疑問に沿った活動を展開できるようにする。
- グループで取り組む活動を意図的に取り入れ、教え合ったり、助けあったりできるようにする。



第6班 テーマ： 目標をもち主体的に取り組む

大田原市立薄葉小学校 藤田 美里
野崎幼稚園認定こども園 大津美早紀

大切にしたい子どもの姿

- 友達と一緒に意欲的に活動や生活をする。
- 自分のことだけでなく、周囲へも自然と目が向き、声を掛け合う姿がある。
- 自分にできることや、やりたいことに進んで取り組んでいる。
- 自分の思いをのびのびと表現する。

- 自分の思いをのびのびと表現する。
- 友達のよいところに気付いたり、認められたりする中で、自分に自信をもって活動や生活をしている。
- 自分で考えたり、判断したり工夫したりする体験を重ねる。
- 就学することを楽しみにし、期待感をもつ。

- 一日の流れを知り、ルールを身に付けて、安心して学校生活を送る。
- 学ぶことに喜びを感じ、自分の考えを積極的に発言する。
- 給食当番や係活動などに責任をもち、友達と協力して取り組む。
- 自分の思いを友達や教師に伝える。

- 友達と声を掛け合い、活動を工夫する。
- 課題の解決に向かって考えたり、友達と交流したりしながら意欲的に取り組んでいる。
- 目標を意識しながら生活し、できるようになったことを喜んでい

自覚的な学び

目指す姿：「やりたいと思ったことに進んで挑戦できる子ども」

幼児期・年長後半

育ちにつながる活動の例



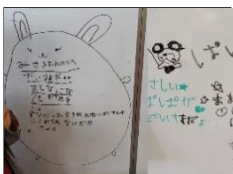
遊具が雨で濡れていることに気づき、友達と相談し、行動に移す



遠足
子どもたちでルートを決めて散策する



友達の「やってみたい」のつぶやきを膨らませて実際に遊びへ発展させる



気持ちが卒園や就学に向かい、周りの人へ感謝の気持ちを保育園の壁（ホワイトボード）に表現しようとする。



登校後、自分で支度を済ませて朝の学習をする



友達と協力し、当番活動を進んで行う



ペア活動やグループ活動を通して課題解決を行う



目標を意識しながら生活をする

保育者・教師の指導のポイント



- 子どもがやりたいことを実現できる環境、時間を整える。
- やりたいこと・やってみたいことを自由に話し合い、認め合える雰囲気づくりをする。
- 意欲的な姿を全面的に認め、のびのびと自信をもって行動できるよう、肯定的な言葉を多く使う。
- 自信を深めるためのさりげない援助や働きかけを、個々に合わせて行う。

- 就学に向けて生活の基盤を身に付けられるように意識する。（時間やルール、メリハリ・区切りなど）
- 就学先や学校生活について話題にし、自然と期待感を高めていけるようにする。
- 他園との情報共有・ある程度歩幅を合わせる。（就学までに身に付けたい力などの共通理解）
- 卒園を控え、『今だからやりたいこと』『今だからできること』を思い切り経験できるような環境や時間の設定をする。

- ルールを知らせたり、学習の基盤を身に付けさせたりする。
- 好きな活動を選んで過ごす場の設定を行う。
- 発言したいという思いを大切に、受容的な声かけを行う。
- できている児童を褒めたり、クラスでよいことを伝えたりして、クラス全体がよりよい方向に向かうようにする。
- 生活科、学級活動、休み時間などで子どもの願いが叶えられる活動の設定をする。

- ペア活動やグループ活動を取り入れ、友達と協力して主体的に取り組む場を設定する。
- 目標（個人の生活目標、クラス目標、当番の目標等）に対してどれくらいできているかを振り返る時間を設け、目標を意識できる時間に
- 児童が進んで活動できるような仕組みを作り、できるようになったことを称賛する。



大切にしたい子どもの姿

無自覚な学び

- 日々の連続した遊びや生活の中で、一人一人が「やってみたい」「次はこれに挑戦しよう」という気持ちをもつ。
- 友達と協力して当番活動に取り組む。
- 遊びの中で、友達と関わりながらルールを守って遊ぶ。

- 行事に向けて、クラス全体で共通の目標を決め一人一人が自己発揮する。又、活動の中でみんなと頑張る心地よさを味わう。
- 遊びや生活の中で、子どもたちで目標を決める。
- 就学への期待が高まり、小学校の生活に興味をもつ。

- 新しい小学校での生活、新たな友達との出会いを楽しみにしている。
- 自分のことは自分で行っている。
- 友達と一緒に学校生活や共通の課題に取り組むことを楽しんでいる。
- 当番や係の活動に、意欲をもって取り組んでいる。

- キャリアパスポートを用いて個々の目標をたて、それに向かって頑張ろうという希望をもっている。
- クラスでの共通の目標と個人の目標に向かって頑張っている。
- 自分で自分の課題を選び、進んで取り組んでいる。

自覚的な学び

目指す姿… 活動の中で、自分にあった目標をもち 進んで取り組む子ども

幼児期・年長後半

育ちにつながる活動の例



一人一人がやりたいことを十分楽しむ



運動会に向けみんなで忍者になりきる



1日の遊びや活動の中で主体的に協力する



自分たちで決めた役を演じ、作り上げる

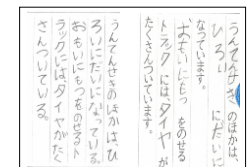


登校後、支度を済ませ好きな本を選んで読む

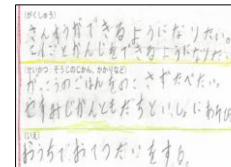


日直、給食当番や係活動に主体的に取り組む

児童期・一年生前半



自分の力に合わせたワークシートを選ぶ



キャリアパスポートで自分の目標を決める

保育者・教師の指導のポイント

- 日々の遊びや生活の中で、子どもと一緒に遊びながら、誰かと一緒に頑張る心地よさを感じられるようにする。
- 子どもたちの興味関心に合わせて環境や玩具を設定する。
- 当番活動や、年長児の活動の際には、意欲的に取り組めるよう頑張りを認める声掛けをする。
- 行事の際には、クラスで話し合う時間を設け、自分たちで目標を決められるようにする。

- 友達と遊ぶよさを感じながら、協力する心地よさを感じられるよう、喜びや心地よさを感じられるような仲立ちをする。
- 行事や当番活動を主体的に行えるよう、子どもたちの姿を見守り、必要な部分のみ援助する。
- 小学校への期待を受け止め、不安のある子には気持ちに寄り添い、安心して就学に繋がれるようにする。

- 安心感をもって活動が進められるように、活動時間や考える時間を十分に確保する。
- 学校生活への興味関心を高められるような課題や場の設定を工夫をする。
- 子どもたちの活動を見守り、最小限のアドバイスをする。
- 一人一人の育ちを理解しながら、受容的な関わりに努める。
- 当番や係活動の中で、一人一人の良さを発揮できるようにする。
- ペアやグループで活動する場面を積極的に取り入れる。

- 主体的に活動に取り組むことができるよう、選択肢の幅を広げた場を設定し、自分で自分にあった課題を選ぶことができるようにする。
- キャリアパスポートを通して、自分の目標を決め、目標に向かって努力できるように支援する。
- 話合いやグループ活動を通して、自分の考えを相手に伝えることができるようにする。
- 自己発揮できるよう、支援は最小限にし、安心してチャレンジすることができるように工夫する。

